始まりと終わりの夏

紅蘭リト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

始まりと終わりの夏

【Ｎコード】

Ｎ０３２３Ｆ

【作者名】

紅蘭リト

【あらすじ】

あなたは『別れ』を何だと思いますか？大好きな仲間との別れが間近な恋歌（レンカ）は最後の夏を過ごしていた。茜（アカネ）、サツキ、大和（ヤマト）、雅（ミヤビ）、純（ジュン）との最後の夏休みは…

この街で過ごす最後の夏。田舎とも、都会とも言えないこの場所で産まれ育った。
都会みたいに遊ぶところじゃなければ、自然にも恵まれなくて。
それでも、私はこの街を愛していた。

澤野　恋歌　中学3年。
私はこの夏を最後に、
引っ越す。

「れ～ん！行くよ。」
友達のサツキに呼ばれ、私は空を見上げるのを止めた。空は高く、
青く、澄んでいた。

「せっかくの夏休みなのに、なんで大和の家で勉強するの～？」
「サツキが宿題やらないからじゃないの？」
私が笑うとサツキは膨れっ面で私を見た。
「私だけじゃないでしょ。雅とかさ。」
雅の名前を言うと、サツキは赤くなった。
「そんなに雅が好き？」
「れん、からかわないで。」私がごめんと笑うと、サツキは走った。
「急ごう！早く終わらせて遊ぼう！！」

「大和～！」
チャイムを鳴らしながら大和を呼ぶと、
茶色い髪の男が出てきた。

「おせぇぞ！」
茶色い髪の男、大和は笑いながら私の頭をぐしゃぐしゃにした。
午前１０時
勉強会の開始。

私、サツキ、茜、大和、純、雅。私の大切な大切な友達。
「れ～んか～？この問題分かんねぇ？」
「純！そこ違うって。」
こうやって皆と居る事が何よりも楽しくて、
愛しくて、失いたくないものだった。

「大和、トイレ借りるね。」
私がトイレに行き、帰ってくると私が居なかったように楽しく話していた。
私が居なくても変わらない。

きっと、引っ越した後もこんな感じにみんな笑うのだろう。

行かないで。
そう言ってほしかった。
なにが変わる訳ではないけれど、引き留めて欲しかった。
どうしようもない位、暗かった私に声をかけてくれたサツキ。
悩んでいたら真っ先に相談に乗ってくれた茜。
いつも明るくて、笑って明るくしてくれた雅。
『大丈夫。良くやった。』って頭を撫でてくれる大和。
大人しくて、でもしっかりしていて。何も言わずに淋しいときに傍にいてくれた純。

ずっと一緒にいたいよ。
誕生日を祝って、

学校行って、
ご飯を食べて、
遊んで…
いつもみたいにずっと居たかったよ。
涙が零れた。
私だって、まだやりたい事いっぱいあったのに。

「恋歌？どうした？泣いてんの？」
純がうつ向いていた私の顔を覗きこんだ。
「何でもないよ？」
「そっか…。」
純はその場に座り込み、隣を座れと叩いた。

「皆、楽しそう。」
「恋歌が居ないと、盛り上がらないよ？」
「そんな事ないッ！！」
私は叫んだ。
悔しかった。
こんなにも皆を想うのは自分だけのような気がして。
純に言ってほしい事をサラリと言われて。
「そんな事ないでしょ！？今だって楽しそうだし、私が居なくたって変わんないよ！！そうでしょ！？」
純は私を睨んだ。
こんな純は初めてで私は怯えた。
「本気で言ってんの？俺等は今まで仲良くやってたじゃん。そのなかの誰が抜けても駄目なんだよ。」
「そうだよ。」後ろから聞こえた茜の声に驚いた。
「言うつもりは無かったけど…アンタに行ってほしくない。でも、それはどうする事も出来ないから。」
茜は泣いていた。

「だから、皆であと少しの恋歌と過ごせる日を楽しくしようって。
今まで通りで居ようって…！」
私は茜を抱き締めた。
「ごめんね。」
「私は恋歌が大好きだよ。」
「私も茜が大好きだよ。」
私はきっと、仲間外れが怖かったんだ。
胸の奥に何かが詰まって、時がたつごとに不安で心がバラバラになった。
でも、行かないでと言ってくれるのなら私は頑張れるよ。

出発日には皆が来てくれた。
「絶対帰ってこいよ。」
大和は頭をなでてくれた。
「俺たちには恋歌が必要なんだからな、忘れんなよ。」
純は優しく笑った。

「さよならなんて言わないからな！！」
雅は目を真っ赤にして乱暴に言った。

「何かあったら相談してね？」
茜は待っていると囁いてくれた。

「忘れたら承知しないから！」
サツキは涙を流しながら叫ぶように言った。

「…ありがとう…」

「もっと大きな声で！」
雅が言った。
「雅生意気！！みんなありがとう！！大好きです！」

もし、辛くてどうしようも無くなったら皆の笑顔を思いだそう。
今はただ、傍に居てほしい。
別れはきっと意味があるなんて、ホントかどうかなんてわからない。
でも、私のために涙を流してくれる皆が大好き。
だから、また出会えると信じて行こう。

（後書き）

大切な人と別れるのは不安なもの。だからこそ、信じて行くのが大切なんだと思います。こんな友達が欲しいと私は思います。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0323f/

始まりと終わりの夏

2010年10月17日04時28分発行